

「コルゴ
ン」
「チー
ハン」
の
紅葉

無類の急
坂

カルサルに到る。此處は人家僅に六戸、官店の設け有り。而して其の此に入る前、約二里餘の處に吊橋を架す。蓋し同河は、セシル嶺の北を東流圍繞し來りし印度河なり。沿道花崗岩多く「チーハン」ユルゴン楊柳等叢生し、小部落處々に點在す、氣温は午前四十三度、午後六十度。

十一日午前七時發、初め約二里は東進し、次で南に折れて上る。坂路漸次に急を告げ、且つ著しく冷氣を感ず。午後二時二十五分行程七里餘、カルトンに着す。人家十六戸、官店あり。氣温は午前四十八度、午後は五十五度。途中紅葉せる「ユルゴン」チーハン等の茂生して溪流に映せるを見る、端なく嵐峽の秋色を想起し、手綱の緩むを覚えざりき。

一八、カルドン嶺上の氷河天助の犁牛

十二日午前九時三十分發、路は進むに従ひ次第に急となるカルトン嶺の北麓に到り暫時休憩、仰視すれば、白皚々たる絶巔崎嶇羊腸たる急坂、之を上るの容易ならざるを感ず。嶺は海拔實に一萬七千五百尺、其昇降坂の急なること前後比なく、空氣の稀薄、呼吸の促迫、頭痛の甚だしき等、カラコルム嶺超過の際と異ならず。況ん